

漱石『倫敦塔』書誌（一）

はじめに

本稿は夏目漱石の『倫敦塔』（初出 雑誌「帝国文学」十一卷一、帝国文学会編輯発行、明治三十八年一月十日）に関する研究文献の書誌である。『倫敦塔』について稿者は、『倫敦塔』研究文献目録（鳥井正晴・宮蘭美佳・古浦修子編『倫敦塔』論集漱石のみた風景』収録、和泉書院、令和3年3月）を公表している。同稿の内訳は、研究史九件・解説五十七件・解題二十五件・研究文献四〇六件、以上の合計は四九七件となる。

本稿は同稿の公表後、調査で新たに判明した文献の補遺編として、明治四十二（一九〇九）年十月から令和五（二〇二三）年八月までの夏目漱石『倫敦塔』に関する研究文献目録の作成を試みたものである。

凡例

一、文献は表題に『倫敦塔』を冠したものを中心としたが、作品研究の広がりを示すため『倫敦塔』に言及した文献に

についても稿者において取捨せずに可能な限り掲げた。

一、文献の配列は掲載順（発行年月順）とし、ジャンルによる分類は行わなかった。

一、利用者の文献収集の便宜を図ることとあわせて研究者の個人史および論文の評価史を考える上での一つの目安として単行本等への再録状況を可能な限り明らかにすることに努めた。ただし再録にあたっての加筆改稿についての調査は見送らざるをえなかった。

一、単行本は『』で示した。単行本所収の論文及び記事の記載は次の通りである。

執筆者名、表題、編者名、書名、頁数、発行所名、発行年月

雑誌・新聞・紀要等は「」で示し、巻号数はアラビア

†大阪産業大学 国際学部 国際学科 教授

草稿提出日 11月30日

最終原稿提出日 12月1日

† 村田好哉

数字に改めた。雑誌・新聞・紀要等所収の論文及び記事の記載は次の通りである。

執筆者名、表題、発表誌名、巻号数、頁数、編集及び発行所名、発行年月

単行本等への再録には↓を用いた。再録に際しての記載は次の通りである。

(編者名)、書名、頁数、発行所名、発行年月

一、仮名遣いは原文のままとしたが、字体は適宜新字体に改めた。発行年は既成の漱石文献目録との関連から元号に改め、アラビア数字を用いた。

一、本稿の作成にあたっては、後掲の研究史とあわせて以下のオンラインデータベースおよび漱石研究文献目録を参照した。記して御礼を申し上げる。

オンラインデータベース

- ・ 国立国会図書館オンライン (<https://ndlonline.ndl.go.jp/#/>)
- ・ 国立国会図書館サーチ (<https://iss.ndl.go.jp/>)
- ・ 国立国会図書館デジタルコレクション (<https://dl.ndl.go.jp/>)
- ・ CInii Research (<https://cir.nii.ac.jp/>)
- ・ CInii Books (<https://cini.ac.jp/books/>)
- ・ Google ブックス (<https://books.google.co.jp/>)
- ・ Google Scholar (<https://scholar.google.com/>)

- ・ 大宅壮一文庫雑誌記事索引Web版 (Web OYA-bunko)
- ・ さくさくプラス雑誌記事索引集成データベース (皓星社)
- ・ J-STAGE (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>)

- ・ 朝日新聞クロスサーチ
- ・ 読売新聞記事データベース ヨミダス歴史館
- ・ 毎日新聞記事データベース 毎索
- ・ 産経新聞データベース (産経新聞電子版)
- ・ 中日新聞・東京新聞記事データベース
- ・ 日本経済新聞記事データベース 日経テレコン
- ・ 国文学研究資料館 国文学・アーカイブズ学論文データベース他

漱石研究文献目録

- ・ 鎌倉幸光、「漱石文献目録稿」「浪漫古典」1巻6号6輯、昭和書房、昭和9年9月
- ・ 無署名、「漱石研究参考文献目録」「文学」4巻12号、岩波書店、昭和11年12月
- ・ 無署名、「夏目漱石研究文献目録」「文学」10巻12号、岩波書店、昭和17年12月
- ・ 岩波書店編輯部、「漱石参考文献」「思想」162号、岩波書店、昭和10年11月
- ・ 内田道雄「夏目漱石研究文献目録」成瀬正勝他編、「増補国語国文学研究史大成14 鷗外・漱石」三省堂、昭和53

年3月

- ・平野清介編著『新聞集成夏目漱石像一〜六』、昭和54年1月〜59年5月、明治大正昭和新聞研究会
- ・平野清介編著『雑誌集成夏目漱石像一〜二十』、昭和56年7月〜58年5月、明治大正昭和新聞研究会
- ・平岡敏夫編『夏目漱石研究資料集成』全十巻別巻一、日本図書センター、平成3年5月
- ・越智治雄・大野淳一・熊坂敦子・石井和夫・石原千秋諸氏による「漱石研究文献目録」が「国文学解釈と教材の研究」(学燈社)の以下の号に15回掲載。
 - 16巻12号臨時号(昭和46年9月)／18巻5号4月号(昭和48年4月)／19巻13号11月号(昭和49年11月)／20巻14号11月号(昭和50年11月)／21巻14号11月号(昭和51年11月)／23巻6号5月号(昭和53年5月)／24巻6号5月号(昭和54年5月)／26巻13号10月号(昭和56年10月)／28巻14号11月号(昭和58年11月)／28巻16号12月号(昭和58年12月)／29巻1号1月号(昭和59年1月)／29巻2号2月号(昭和59年2月)／31巻3号3月号(昭和61年3月)／32巻6号5月号(昭和62年5月)／34巻5号4月号(平成元年4月)
- ・五十嵐礼子・大木正義・工藤京子・田中愛・橋本のぞみ諸氏による「漱石研究文献目録」が「漱石研究」(小森陽一・石原千秋編、翰林書房)に平成7年5月〜17年11月に

けて以下の号に12回掲載。

- 4号(平成7年5月)／5号(平成7年11月)／6号(平成8年5月)／7号(平成8年12月)／9号(平成9年11月)／11号(平成10年11月)／12号(平成11年10月)／13号(平成12年10月)／14号(平成13年10月)／15号(平成14年10月)／16号(平成15年10月)／18号(平成17年11月)

・山本勝正氏による「夏目漱石参考文献目録」が平成2年12月〜21年12月にかけて以下の号に20回掲載。

- 「広島女学院大学国語国文学誌」20、32、33、36〜39号
- 「広島女学院大学日本文学」1〜10、13〜15号

研究史

相原和邦 「作品別夏目漱石研究史」漾虚集「国文学解釈と教材の研究」21巻14号特集夏目漱石 作品に深く測鉛をおろして(139〜141頁)、学燈社、昭和51年11月

鳥井正晴 「『倫敦塔』研究史ノート(1)」昭和30年〜昭和42年―「大阪音楽大学研究紀要」16号(65〜78頁)、大阪音楽大学、昭和53年2月

鳥井正晴 「『倫敦塔』研究史ノート(2)」昭和43年〜昭和45年4月―「大阪音楽大学研究紀要」17号(95〜108頁)、大阪音楽大学、昭和53年12月

相原和邦 「研究史への照明Ⅱ 漾虚集」竹盛天雄編、「別冊国文学夏目漱石必携」別冊5号、(150〜152頁)、学燈社、

昭和55年2月

塚本利明 「漱石と外国文学 英文学(一)―初期作品より

「坑夫」まで」竹盛天雄編、「別冊国文学 夏目漱石必携Ⅱ」

別冊14号(166～175頁)、学燈社、昭和57年5月

水谷昭夫 「(漱石研究の現在) 漱石のロンドン」 「国文学解

釈と教材の研究」32巻6号特集夏目漱石を読むための研究

事典(34頁)、学燈社、昭和62年5月

鳥井正晴 「(漱石研究の現在) 漾虚集」 同右(74～75頁)

鳥井正晴・藤井淑禎・玉井敬之(司会) 「鼎談」 鳥井正

晴・藤井淑禎編『漱石作品論集成第四巻漾虚集・夢十夜』

(289～320頁)、桜楓社、平成3年5月

酒井英行 「倫敦塔 研究の現在」 「国文学解釈と教材の研究」

39巻2号1月臨時増刊号夏目漱石の全小説を読む(20～23

頁)、学燈社、平成6年1月

鳥井正晴 「『倫敦塔』論の前提―倫敦塔評釈」 鳥井正晴・宮

藺美佳・古浦修子編『『倫敦塔』論集 漱石のみた風景』

近代文学研究叢刊70(237～423頁)、和泉書院、令和3年3

月 仲 秀和 「『倫敦塔』研究史」(425～486頁)、同右

一、本稿の作成にあたっては、主として以下の諸機関および

個人の蔵書を利用して頂いた。御礼を申し上げる。

国立国会図書館東京館、国立国会図書館関西館、日本近代

文学館、大阪府立中央図書館、京都府立図書館、東京都立

中央図書館、神奈川県立近代文学館、愛知県図書館、名古屋

屋市鶴舞中央図書館、石川県立図書館、三重県立図書館、

愛媛県立図書館、新宿区立漱石山房記念館、京都大学附属

図書館、同志社女子大学図書館、大阪産業大学図書館、鳥

井正晴氏

一、作品『倫敦塔』の各種文学全集、文庫本等への収録状況

については、順次掲載の予定である。

解説(補遺)

平成6(一九九四)年

富士川義之 「幻想作家漱石」 富士川義之編『日本幻想文学

集成25夏目漱石』(291～314頁)、国書刊行会、平成6年5月

↓ 『新』東西文学論―批評と研究の狭間で』(209～211頁)、

みすず書房、平成15年12月

↓ 富士川義之・別役実・堀切直人・種村季弘編『新編・日

本幻想文学集成8』(192～204頁)、国書刊行会、平成29年12

月 解題(補遺)

昭和3(一九二八)年

三浦圭三 「ろんどんたふ 倫敦塔」 『日本文学辞典』(920～

924頁)、文教書院・大阪宝文館、昭和3年2月

昭和32(一九五七)年

石上 堅 「明治元年―四十五年 倫敦塔」 『綜合編年近代文

学事典』(60～61頁)、一歩社書店、昭和32年10月

平成27(二〇一五)年

松下浩幸 「あらすじ漱石(152～155頁)」「倫敦塔(152頁)」「別冊太陽 日本のこころ」231夏目漱石の世界 大分漱石論が出て申候。もう沢山に候、平凡社、平成27年8月

令和4(二〇二二)年

松岡浩史 「IV漱石を読む・作品解説 短編小説倫敦塔／カール博物館」くまもと漱石文化振興会・熊本大学文学部附属漱石・八雲教育研究センター編『アイラヴ漱石先生 漱石探求ガイドブック』(78～79頁)、集広舎、令和4年4月
研究文献(補遺)

明治42(一九〇九)年

五十嵐 力 「第五編文章の種類及び文体第一章文章の種類」、『新文章講話』(537～553頁)、早稲田大学出版部、明治42年10月

大正3(一九一四)年

赤木桁平 「夏目漱石論」「ホトトギス」17巻4号209号(121～143頁)、ほと、ぎす発行所、大正3年1月
↓『芸術上の理想主義』(224～282頁)、洛陽堂、大正5年10月

大正13(一九二四)年

木村 毅 「第一四章 傳記小説の事實と空想(下) 倫敦塔の話」『小説の創作と鑑賞』(201～212頁)、新詩壇社、大正

13年9月

大正15(一九二六)年

鈴木敏也 「二 創作家としての夏目漱石」、『文芸論抄廢園雑草』(27～67頁)、右文書院、大正15年10月

昭和10(一九三五)年

羽仁新五 「漱石の初期に於ける創作態度「倫敦塔」「幻影の盾」「薙露行」」『国文学研究』4輯(129～150頁)、早稲田大学国文学会、昭和10年5月

昭和13(一九三八)年

森田草平 「夏目漱石作品の装釘」『図書館雑誌』32年9号226号(278～283頁)、日本図書館協会、昭和13年9月

昭和15(一九四〇)年

高柳賢三 「ロンドン塔」『公論』3巻3号3月号(206～207頁、171頁)、第一公論社、昭和15年3月

昭和17(一九四二)年

松岡 讓 「第一部 漱石の生涯第七章『猫』の前後 『吾輩は猫である』(189～196頁)／第二部 漱石の文學第二章 作品の性格 ロマンチズムの作品(313～315頁)」『漱石・人とその文學』、潮文閣、昭和17年6月

昭和21(一九四六)年

板垣直子 「第一部 夏目漱石 第二章 文學 二 漱石の知性文學・心理的手法・思想性―その発展的な線に即しての作品の検討―」『漱石・鷗外・藤村』(68～117頁)、巖松

堂書店、昭和21年7月

昭和22(一九四七)年

日高只一 「漱石の文學第二章 作品の性格ロマンチズムの作品 ロンドン塔」『人間解放の文學』(153～169頁)、白鳳出版社、昭和22年6月

無署名 「倫敦塔鴉再登場」『外交評論』27巻6号9月号(37頁)、国際連合研究会、昭和22年9月

昭和27(一九五二)年

矢野 剛 「倫敦 港と倫敦橋」「港湾」29巻3号3月号 通巻292号(18～20頁)、港湾協会、昭和27年3月

昭和28(一九五三)年

高木彬光 「この物語について」『ロンドン塔』エーンズワース原作、世界名作文庫72(1～3頁)、偕成社、昭和28年12月

↓『ロンドン塔』少女少女世界の名作8(1～3頁)、エーンズワース原作、偕成社、昭和39年3月

昭和33(一九五八)年

和辻哲郎 「中學生(四) 自叙伝の試み(二十二)」『中央公論』73年13号12月号通巻847号(278～285頁)、中央公論社、昭和33年12月

↓『自叙伝の試み』(266～333頁)、中央公論社、昭和36年12月

↓『和辻哲郎全集第十八巻自叙伝の試み』(266～332頁)、岩

波書店、昭和38年4月

↓『和辻哲郎全集第十八巻自叙伝の試み』第三刷(266～332頁)、岩波書店、平成2年10月

↓『自叙伝の試み』(344～430頁)、中公文庫わー11―2、中央公論社、平成4年4月

昭和38(一九六三)年

柴田宵曲 「前後(49～50頁) / 探偵小説(111～112頁)」『漱石覚え書』、日本古書通信社、昭和38年11月

↓『柴田宵曲文集第七巻漱石覚え書・紙人形・煉瓦塔』(40～41頁/74頁)、編集委員加藤郁乎・木村新・小出昌洋、小沢書店、平成5年9月

↓『漱石覚え書』(32～33頁/78頁)、中公文庫しー42―1、中央公論新社、平成21年9月

昭和40(一九六五)年

三浦一郎 「世界のナゾ ロンドン塔の二王子 リチャード三世極悪人?」『毎日新聞』朝刊三一九七〇号(家庭11面)、毎日新聞社、昭和40年4月16日(金曜)

↓『毎日新聞縮刷版』昭和40年4月号16巻4号通巻184号(375頁)、毎日新聞東京本社、昭和40年5月

昭和41(一九六六)年

石川 淳 「倫敦塔その他」『漱石全集第二巻短篇小説集月報』2(1～2頁)、岩波書店、昭和41年1月

↓『夷斎小識』(82～86頁)、中央公論社、昭和46年5月

↓『増補石川淳全集第十四巻』(291～293頁)、筑摩書房、昭和50年3月

↓『夷斎小識』(59～62頁)、中公文庫、中央公論社、昭和54年1月

↓『現代の随想16石川淳集』(179～182頁)、彌生書房、昭和57年4月

↓『石川淳全集第十五巻』(59～61頁)、筑摩書房、平成2年6月

↓『安吾のいる風景・敗荷落日 現代日本のエッセイ』(172～175頁)、講談社文芸文庫いA5、講談社、平成3年6月

↓澁澤龍彦編『石川淳随筆集』(217～223頁)、平凡社ライブラリー907、平凡社、令和2年8月

昭和42(一九六七)年

佐藤信正 「同窓会会報 第1回欧米齒科事情視察団旅行記

(3) ロンドン・パリーの旅」九州齒科学会雑誌」21巻2

号(58～69頁)、九州齒科学会、昭和42年9月

杉本秀太郎 「第二部文学的発想の原型 植物的なもの—文

学と文様— 桑原武夫編『文学理論の研究』京都大学人文

科学研究所報告(46～64頁)、岩波書店、昭和42年12月

↓『文学の紋帖』(28～39頁)、構想社、昭和52年3月

↓『諸芸の論杉本秀太郎粹3』(323～355頁)、筑摩書房、

平成8年5月

昭和45(一九七〇)年

小山田義文 「教壇のトピックス ロンドン塔の二王子」高
校クラスルーム」2巻10号1月号(28～29頁)、旺文社、
昭和45年1月

昭和47(一九七二)年

小沢勝美 「吾輩は猫である」における漱石像」「日本文学」
21巻6号特集明治四十年以前の漱石(11～19頁)、日本文
学協会、未来社発行、昭和47年6月

塚本利明 「書評 矢本貞幹著『夏目漱石』」「比較文学」15

巻(94～96頁)、日本比較文学会、昭和47年10月

昭和48(一九七三)年

斉藤恵子 「趣味の遺伝」の世界」「比較文学研究」24号
(80～109頁)、東大比較文学會編、朝日出版社、昭和48年9
月

↓『漱石論集こゝろのゆくえ』(99～145頁)、春風社、令和
3年11月

昭和49(一九七四)年

實吉晴夫 「比較文化論その一—漱石の場合—」『横浜商大論
集』7巻2号(86～114頁)、横浜商科大学学術研究会、昭
和49年4月

角野喜六(文)・山崎 裕(写真) 「世界の旅 漱石とロンド

ン」「太陽」12巻6号6月号133号(112～120頁)、平凡社、昭

和49年5月

伊豆利彦 「夏目漱石の明治三十九年」『日本文学』23巻5号

特集明治三十九年・漱石とその周辺(1～16頁)、日本文学協会、昭和49年5月

小沢勝美 「草平と漱石との出会いについて」(26～35頁)、同右

新見満雄 「神秘半獣主義」への過程」(48～57頁)、同右

昭和50(一九七五)年

江藤 淳 「序説(1～8頁)／三『漾虚集』の問題―文学と視覚芸術との相関関係を中心として(68～84頁)』『漱石とアーサー王伝説―『薙露行』の比較文学的研究―』、東京大学出版会、昭和50年9月

↓『漱石とアーサー王伝説―『薙露行』の比較文学的研究―』(23～30頁／90～106頁)、講談社学術文庫973、講談社、平成3年6月

熊坂敦子 「書評 野谷士・玉木意志太著『漱石のシェイクスピア』」『比較文学』18巻(89～91頁)、日本比較文学会、昭和50年10月

昭和53(一九七八)年

西本鶏介 「夏目漱石 3なやみながらの教師生活 下宿にたてこもりたり」『世界伝記全集第18巻夏目漱石・北里柴三郎』(112～116頁)、西本鶏介・斎藤晴輝著、講談社、昭和53年2月

昭和54(一九七九)年

蛭川久康 「歴史と伝統を映して(2)―ロンドン・河口―ロンドン塔」『写真集イギリスの歴史と文学②テムズの流れに沿って』(114～118頁)、蛭川久康・井上宗和著、大修館書店、昭和54年7月

昭和55(一九八〇)年

竹盛天雄・長島裕子編 「漱石書誌稿」竹盛天雄編『夏目漱石必携』別冊 国文学5号(195～214頁)、学燈社、昭和55年2月

無署名 「漱石著書の初版本装幀・挿画一覧」『夏目漱石遺墨集別冊』(29～39頁)、監修津田青楓・夏目純一、著者石崎等・中島国彦・芳賀徹・紅野敏郎・内田道雄・古川久、求龍堂、昭和55年3月

芳賀 徹 (40～48頁)、同右

↓『絵画の領分 近代日本比較文化史研究』(491～518頁)、朝日新聞社、昭和59年4月
↓『絵画の領分 近代日本比較文化史研究』(491～518頁)、朝日選書412、朝日新聞社、平成2年10月

神山睦美 「第三部作品論 第二章『漾虚集』」『夏目漱石論―序説』(167～186頁)、国文社、昭和55年6月

中川浩一 「漱石の読図力と位置感覚」『地図』18巻2号 通巻70号(14～19頁)、日本国際地図学会、昭和55年6月

岡 三郎 「夏目漱石の‘monoconscious theory’ (純一意識理

論)の比較思想的解明」「比較思想研究」7号特集明治期における西洋思想の受容と反応(28～37頁)、比較思想学会、昭和55年12月

酒井英行 「内田百閒文学の原点―岡山中学校時代の作品検討」『國文學解釈と教材の研究』25巻15号12月号(160～165頁)、學燈社、昭和55年12月

↓『内田百閒〈百鬼〉の愉楽』(33～53頁「33～44頁3行」、有精堂出版、平成5年9月

↓『内田百閒―「百鬼」の愉楽―』(33～53頁「33～44頁3行」、沖積舎、平成15年6月

昭和56(一九八二)年

酒井英行 「内田百閒文学の原点(承前)―岡山中学校時代の作品検討」『國文學解釈と教材の研究』26巻1号1月号(168～172頁)、學燈社、昭和56年1月

↓『内田百閒〈百鬼〉の愉楽』(33～53頁「44頁6行～53頁」、有精堂出版、平成5年9月

↓『内田百閒―「百鬼」の愉楽―』(33～53頁「44頁6行～53頁」、沖積舎、平成15年6月

大竹雅則 「漱石論(一)―『猫』と『漾虚集』の関係について―」『論究』2号(14～28頁)、論究の会、昭和56年8月

↓『夏目漱石論攷』(26～49頁)、桜楓社、昭和63年5月

大河内昭爾 「文学風土記夏目漱石」山本健吉編『カラーグラフィック明治の古典9吾輩は猫である』(174～177頁)、学

習研究社、昭和56年9月

久保忠夫 「書評 松村昌家『明治文学とヴィクトリア時代』」『比較文学』24巻(171～174頁)、日本比較文学会、昭和56年12月

昭和57(一九八二)年

関口安義 「漱石と教科書」竹盛天雄編『夏目漱石必携Ⅱ』別冊國文學14号(210～221頁)、學燈社、昭和57年5月

武井邦夫 「第一部ロンドンの表情―最初の一ヶ月―ロンドン塔 十月七日(日)」『ロンドン遊学記』(26～32頁)、リィジョナル・ブックス、古今書院、昭和57年6月

瀬戸内晴美(寂聴) 「青鞥第八回 七章」『婦人公論』67巻9号9月号 800号(464～474頁)、中央公論社、昭和57年9月

↓『青鞥 上』(116～132頁)、中央公論社、昭和59年10月

↓『青鞥』(130～147頁)、中公文庫、中央公論社、昭和62年5月

↓『瀨戸内寂聴伝記小説集成第五巻青鞥・伝教大師巡礼』(130～147頁)、文芸春秋、平成2年3月

↓『瀨戸内寂聴全集第十三巻青鞥』(113～128頁)、新潮社、平成14年2月

水谷昭夫 「カーライル博物館署名考 夏目漱石『カーライル博物館』をめぐる」『人文論究』32巻3号(1～11頁)、

関西学院大学人文学会、昭和57年12月

↓『水谷昭夫著作集第二卷漱石の原風景』(153～165頁)、新
教出版社、平成9年10月

大竹雅則 「漱石論(三) — 英国留学の意味するもの —」 「論
究」4号(34～51頁)、論究の会、昭和57年12月

昭和59(一九八四)年

塚本利明 「ロンドンの地下鉄 — 漱石のロンドン塔訪問に触
れつつ —」 「専修英米研究」2号(100～131頁)、専修大学英
語英米文学会、昭和59年3月

↓『漱石と英国 — 留学体験と創作との間 —』(101～151頁)
彩流社、昭和62年9月

↓『増補版 漱石と英国 — 留学体験と創作との間 —』
(101～151頁) 彩流社、平成11年3月

寺尾 茂 「第二部イギリス↓フランス↓ベルギー↓西ドイ
ツ4ロンドンの点(ロンドン塔のゆううつ)」 『ヨーロッパ
旅行記 ヨーロッパへ出かける人のために』(69～73頁)、
近代文芸社、昭和59年4月

昭和60(一九八五)年

阿部正路 「漱石の漾虚 — 漱石の自画像としての「朱達摩渡
江図」 —」 「國學院雑誌」86巻3号通巻936号(1～15頁)、
國學院大学、昭和60年3月

↓『漱石邸幻想』(22～38頁)、創樹社、昭和60年12月

熊坂敦子 「ロンドン」 「國文學解釈と教材の研究」30巻14号
11月臨時増刊号 文学紀行ガイドブック — 飛鳥から東京そ

してパリ — (194～195頁)、学燈社、昭和60年11月

昭和61(一九八六)年

久山 康 「イギリスにて(16～77頁)」 「ロンドンの街角で
(20～36頁)」 『ヨーロッパ心の旅』、発行国際日本研究所、
発売創文社、昭和61年3月

石原千秋 「書評・展望 越智治雄『漱石と文明 文学論集
2』」 「日本文学」35巻5号(79～81頁)、日本文学協会、
昭和61年5月

水川隆夫 「第二章「吾輩は猫である」の時代「漾虚集」
『漱石と落語 — 江戸庶民芸能の影響 —』(137～146頁)、彩流社、
昭和61年5月

昭和61年5月

↓『増補漱石と落語』平凡社ライブラリー342(168～180頁)、
平凡社、平成12年5月

昭和62(一九八七)年

網野義紘 「漾虚集 夏目漱石著」 『日本文芸鑑賞事典 — 近代
名作107選への招待 — 第3巻(明治37～42年)』(121～136頁)、
ぎょうせい、昭和62年4月

稲垣瑞穂 「ロンドン市内見学(34頁) / タワー・ブリッジ
(34～36頁) / ロンドン塔(37～44頁)」 『漱石とイギリス
の旅』、吾妻書房、昭和62年5月

↓『夏目漱石と倫敦留学』改訂新版(22～32頁)、吾妻書房、
平成2年11月

↓『夏目漱石ロンドン紀行』(25～33頁)、清文堂出版、平

成16年10月

熊坂敦子 「第三部英国留学」『夏目漱石展』日本近代文学館
創立二十五周年記念(37～44頁)、日本近代文学館、昭和
62年5月

石崎 等 「第四部作家漱石の誕生―吾輩は猫である」坊っ
ちゃん「など」(45～62頁)、同右

昭和63(一九八八)年

伊豆利彦 「漱石の精神 一体二様の見解」『横浜市立大学論
叢 人文科学系列』39巻2・3号(291～313頁)、横浜市立大
学学術研究会、昭和63年3月

↓『漱石と天皇制』(30～54頁)、有精堂出版、平成元年9
月

平成2(一九九〇)年

上田正行 「漱石と「数」―「カーライル博物館」を中心に―」
『国文学言語と文芸』105号復刊30号(65～79頁)、大塚国語
国文学会編、桜楓社、平成2年1月

↓『鷗外・漱石・鏡花―実証の糸』(288～303頁)、翰林書房、
平成18年6月

野中 涼 「書評 塚本利明『漱石と英国―留学体験と創作
との間』」『比較文学』32巻(149～152頁)、日本比較文学会、
平成2年3月

平成3(一九九一)年

川村 湊 「解説―「救済者」としての舞姫」『舞姫』森鷗外

著、集英社文庫(237～256頁)、集英社、平成3年3月

↓『川村湊自撰集2巻近代文学編』(169～184頁)、作品社、
平成27年4月

橋本暢夫 「中等国語教材史からみた夏目漱石」『国語科教育』
38集(91～98頁)、編集・発行全国大学国語教育学会、発
行所学芸図書、平成3年3月

八木福次郎 「夏目漱石」『古本便利帖』(164～167頁)、東京堂
出版、平成3年7月

尹 相仁 「浪漫的魂の行方『薙露行』から『草枕』へ」『へ
るめす』34号(44～57頁)、岩波書店、平成3年11月

↓『世紀末と漱石』(261～299頁)、岩波書店、平成6年2月
↓『世紀末と漱石』岩波人文書セレクション(261～299頁)、
岩波書店、平成22年12月

平成4(一九九二)年

中川浩一(文)・**小尾淳介**(撮影)「絵ハガキ紀行。横浜か
らいギリスへ、漱石の船旅」『翼の王国』3月号通巻273号
(30～37頁)、全日本空輸、平成4年3月

今井 宏 「第一部イギリスの歴史と地理第1章歴史」『コラ
ム』ロンドン塔残酷物語』『読んで旅する世界の歴史と文
化イギリス』(18頁)、監修小池滋、新潮社、平成4年5月
小池 滋 「第2章地理Ⅱ地方・都市ガイド ロンドンとそ
の近郊」(48～58頁)、同右

田村道美 「漱石と皆川正禧―The Shaving of Shagpatの翻

訳出版まで」 「英学史研究」 25号 (1～13頁)、日本英学史学会、平成4年10月

森本義裕 「カントにおける経験の可能性」 「倫理学」 10号

(25～41頁)、筑波大学倫理学原論研究会、平成4年11月

平成5 (一九九三) 年

〈幹〉 「窓・論説委員室から 漱石記念館」 「朝日新聞」 夕刊

三八四一三号 (2面)、朝日新聞東京本社、平成5年1月

7日 (木曜)

↓ 『朝日新聞縮刷版』 平成5年1月号通巻859号 (286頁)、

朝日新聞社、平成5年2月

塚本利明 「書評 平川祐弘・鶴田欣也編『漱石の「こゝろ」」

どう読むか、どう読まれてきたか」 (新曜社、一九九二年)

「比較文学」 36巻 (149～152頁)、日本比較文学会、平成5年

3月

富士川義之 「『倫敦幽霊紳士録』 J・A・ブルックス著

こでも出沒 幽霊の楽しさ」 「読売新聞」 朝刊四二〇九五

号 (読書8面)、読売新聞社、平成5年7月26日 (月曜)

↓ 『読売新聞縮刷版』 36巻7号7月号通巻419号 (1206頁)、

読売新聞社、平成5年8月

無署名 「新書文庫 ロンドン塔 出口保夫著」 「日本経済

新聞」 朝刊三八七二五号 (読書23面)、日本経済新聞社、

平成5年8月15日 (日曜)

↓ 『日本経済新聞縮刷版』 45巻8号8月号 (647頁)、日本

経済新聞社、平成5年9月

樋口陽子 「初めての英国 発見と確認の旅 (1983年夏)」 「学

習院女子部論叢」 7号 (9～81頁)、学習院女子中・高等科、

平成5年11月

平成6 (一九九四) 年

伊 相仁 「第三章世紀末芸術と美的体験」 (117～171頁) /

「第四章ラファエル前派的想像力―ヒロインの図像学―」

(173～218頁) 『世紀末と漱石』、岩波書店、平成6年2月

↓ 『世紀末と漱石』 岩波人文書セレクション (117～171頁) /

(173～218頁)、岩波書店、平成22年12月

金井公平・三浦清宏 「英米文学と日本文学の怪奇小説の比

較―世紀末都会幻想―」 「明治大学人文科学研究所紀要」

35号 (87～109頁)、明治大学人文科学研究所、平成6年3

月

平成7 (一九九五) 年

松井菜穂子 「『漾虚集』 ―趣味の遺伝― を中心として」

「国語年誌」 13号 (28～36頁)、神戸大学国語教育学会、平

成7年2月

無署名 「文庫 漱石のロンドン風景 出口保夫、アンド

リュール・ワット編著」 「日本経済新聞」 朝刊三九三七八号 (読

書14面)、日本経済新聞社、平成7年7月2日 (日曜)

↓ 『日本経済新聞縮刷版』 47巻7号7月号 (66頁)、日本

経済新聞社、平成7年8月

西野博道 (文)・香川元太郎 (イラストレーション) 「THE

TOWER OF LONDON 英国王朝とロンドン塔タワー・グリーン
の露と消えた女王」『歴史群像』4巻5号10月号21
号 (67〜70頁)、学習研究社、平成7年10月

川村 湊 「漱石と帝国主義「帝国」の漱石」『漱石研究』5
号 (28〜38頁) 特集漱石と明治 小森陽一・石原千秋編、
翰林書房、平成7年11月

↓ 『川村湊自撰集2巻近代文学編』 (155〜168頁)、作品社、
平成27年4月

松村昌家 「ロンドン ミステリー・ツアー都市回廊世紀末
の魔都に潜む幻想空間 ロンドン・グレート・ミステリー
1 ロンドン塔―大いなる謎に包まれた大城郭の秘密」『GEO
ジオ』2巻12号24号 (38〜39頁)、田中伊織編集、DDPデ
ジタルパブリッシング、平成7年12月

平成8 (一九九六) 年

西川盛雄 「漱石の英詩におけるポイエティクス」『熊本大
学教育学部紀要人文科学』45号 (135〜160頁)、熊本大学教
育学部、平成8年12月

平成9 (一九九七) 年

倉田保雄 (文)・ピエール・ルルタン (絵) 「ロンドンの地下
鉄と御殿場のウサギ」『翼の王国 WINGSPAN』7月号
通巻337号 (80〜81頁)、全日本空輸、平成9年7月

清水康次 「単行本書誌 (457〜591頁)」『単著2 濛虚集 (初刊

本) (469〜471頁) / 27倫敦塔 (現代名作集第七編) (506〜507

頁) / 32倫敦塔幻影の盾薙露行 (縮刷本) (512〜514頁) /

51濛虚集 (縮刷本) (539〜540頁) / 56倫敦塔外二篇 (縮刷本)

(545〜547頁) / 60夏目漱石集 (現代日本文学全集第一九篇)

(550〜551頁) / 61明治大正文学全集第二七卷 (夏目漱石篇)

(551〜552頁) / 三合著集・抄文集75明治大家文集 (571頁) /

76明治百家文選 (572頁) / 77詳註細評現代名家文選 (572〜

573頁) / 79作文講話及文範 (574〜575頁) / 80作法文範文章

大観 (575頁) / 81現代名家一人一景 (575〜576頁) / 82明治

文学選 (576頁) / 84作法作例叙景文 (新式作文大成第七編)

(577〜578頁) / 四その他 主要作品の単行本収録状況表 (明

治・大正期) (587〜591頁)」『漱石全集第二十七卷別冊下』

岩波書店、平成9年12月

↓ 『定本漱石全集第二十七卷別冊下』 (439〜576頁)、岩波書

店、令和2年1月

坂上博一 「阿部次郎のヨーロッパ美術紀行」『明治大学人文
科学研究所紀要』42冊 (281〜295頁)、明治大学人文科学研
究所、平成9年12月

平成10 (一九九八) 年

中江 彬 「漱石の『草枕』におけるミケランジェロー超人的
芸術論の歴史」『人文学論集』16集 (17〜38頁)、大阪
府立大学人文学会、大阪府立大学総合科学部人文学会、平
成10年1月

中江 彬 「漱石の『吾輩は猫である』とミケランジェロ」「大阪府立大学紀要人文・社会科学」46巻（1～13頁）、大阪府立大学、平成10年3月

梅原 猛 「思うままに 漱石について（7）歴史の敗者への深い共感」「東京新聞」夕刊一九九七九号（文化9面）、中日新聞東京本社、平成10年4月13日（月曜）
「中日新聞」夕刊二〇〇一二号（文化6面）、中日新聞社、平成10年4月13日（月曜）

↓『中日新聞縮刷版』平成10年4月号27巻4号（556頁）、中日新聞社、平成10年5月

↓『亀とムツゴロウー思うままに』（168～192頁）、文藝春秋、平成11年10月

梅原 猛 「思うままに 漱石について（8）軽快な笑い消えた後期作品」「東京新聞」夕刊一九九八六号（文化7面）、中日新聞東京本社、平成10年4月20日（月曜）
「中日新聞」夕刊二〇〇一九号（文化6面）、中日新聞社、平成10年4月20日（月曜）

↓『中日新聞縮刷版』平成10年4月号27巻4号（876頁）、中日新聞社、平成10年5月

↓『亀とムツゴロウー思うままに』（168～192頁）、文藝春秋、平成11年10月

梅原 猛 「思うままに 漱石について（9）自然主義文学からの影響」「東京新聞」夕刊一九九九三三号（文化7面）、

中日新聞東京本社、平成10年4月27日（月曜）
「中日新聞」夕刊二〇〇二六号（文化6面）、中日新聞社、平成10年4月27日（月曜）

↓『中日新聞縮刷版』平成10年4月号27巻4号（1188頁）、中日新聞社、平成10年5月
↓『亀とムツゴロウー思うままに』（168～192頁）、文藝春秋、平成11年10月

後藤秋正 「現代言葉遣い小考（三）——国語を教える者の自戒のために——」「札幌国語研究」3号（29～44頁）、北海道教育大学札幌校国語国文学科、平成10年5月

藤尾健剛 「書評 裕香文著『夏目漱石初期作品攷 奔流の水脈』」「日本文学」47巻12号（52～53頁）、日本文学協会、平成10年12月

平成11（一九九九）年

久世光彦 「読書 書棚から 記憶に残る本 気になる本 飽かず（はざま）書く」「朝日新聞」朝刊四〇五四二二号（くらし13面）、朝日新聞社、平成11年1月17日（日曜）

↓『朝日新聞縮刷版』平成11年1月号通巻931号（755頁）、朝日新聞東京本社、平成11年2月

石原孝哉・市川 仁・内田武彦 「第二章 ロンドン塔とタワー・ヒルの怪 五火薬陰謀事件の首謀者ガイ・フォークス・クラブ ラッディ・タワー」『ミステリーの都 ロンドン ゴースト・ツアーへの誘い』丸善ライブラリー307（47～49頁）、丸善、

平成11年11月

平成12(二〇〇〇)年

矢島裕紀彦(文)・高橋昌嗣(写真)「グラビア 文士の逸品スペシャル 百年前の留学生 夏目漱石」「文藝春秋」78巻11号9月号(7～13頁)、文藝春秋、平成12年9月
↓『文士の逸品』(11～19頁)、発行文春ネスコ、発売文藝春秋、平成13年9月

井上雅彦「解題—もうひとつのリーディング—」井上雅彦編『塔の物語 異形アンソロジータロット・ボックスI』(291～305頁)、角川ホラー文庫H32—6、角川書店、平成12年9月

平成13(二〇〇一)年

齊藤恵子「書評 塚本利明著『漱石と英文学』『漾虚集』の比較文学的研究」「比較文学」43巻(123～127頁)、日本比較文学会、平成13年3月
↓『漱石論集こゝろのゆくえ』(362～368頁)、春風社、令和3年11月

加藤弘和「『火薬陰謀事件』または「ガイ・フォークス・デー」をめぐって」「東北公益文科大学総合研究論集」Forum21創刊号2001(143～154頁)、東北公益文科大学、平成13年4月

湯浅信之「漱石における東西の葛藤—留学から『草枕』までを中心に—」佐藤泰正編『漱石を読む 笠間ライブラリー』梅光女学院大学公開講座論集』第48集(11～33頁)、笠間

書院、平成13年4月

平成14(二〇〇二)年

梅原 猛「思うままに「坊っちゃん」を読もう 愚直の徳を取り戻せ」「東京新聞」夕刊二一五〇四号(文化7面)、中日新聞東京本社、平成14年8月5日(月曜)

平成15(二〇〇三)年

石井和夫「漱石とカーライル」「香椎潟」49号(205～212頁)、福岡女子大学国文学会、平成15年6月
↓『国文学年次別論文集近代2』平成15(2003)年(17～21頁)、

学術文献刊行会編、朋文出版、平成18年2月

清水 徹「物と眼 明治文学論集 ジャンルジャック・オリガス著」「毎日新聞」朝刊四五八五号(読書11面)、毎日新聞社、平成15年10月26日(日曜)

↓『毎日新聞縮刷版』平成15年10月号54巻10号通巻646号(101頁)、毎日新聞東京本社、平成15年11月

平成16(二〇〇四)年

齊藤恵子「書評 塚本利明著『漱石と英文学』『漾虚集』の比較文学的研究』(改訂増補版)(彩流社、二〇〇三年)」「比較文学」46巻(126～127頁)、日本比較文学会、平成16年3月
↓『漱石論集こゝろのゆくえ』(368～370頁)、春風社、令和3年11月

加藤二郎「漱石の血と牢獄」「文学」5巻3号5、6月号

(148～164頁)、岩波書店、平成16年5月

↓『漱石と漢詩―近代への視線―』(299～323頁)、翰林書房、平成16年11月

安宗伸郎 「1漱石文学の考究」『漱石文学の研究』(113～119頁)、溪水社、平成16年6月

平成17(二〇〇五)年

柏木隆雄 「書評 ジャーン・ジャック・オリガス著『物と眼 明治文学論集』」『比較文学』47巻(144～147頁)、日本比較文学会、平成17年3月

山折哲雄 「半歩遅れの読書術 漱石の狂気 ロンドン体験、執拗に追う」『日本経済新聞朝刊四二九五三号(読書23面)、日本経済新聞社、平成17年8月7日(日曜)

↓『日本経済新聞縮刷版』57巻8号8月号(399頁)、日本経済新聞社、平成17年9月

橋口晋作 「夏目漱石「幻影の盾」と幸田露伴、尾崎紅葉等の文壇出世作―「幻影の盾」の材源と漱石の創作手法―」『近代文学論集』31号(1～10頁)、日本近代文学会九州支部、平成17年11月

平成18(二〇〇六)年

塚本利明 「『文学論』本文の検討(2)―「Lives of Saints」を中心に―」『専修人文論集』78号(25～50頁)、専修大学学会、平成18年3月

↓『漱石と英文学Ⅱ―吾輩は猫である』および『文学論』

を中心に』(401～519頁)、彩流社、令和元年8月

平成19(二〇〇七)年

梅原 猛 「思うままに 周五郎らが読まれるワケ 文学と

道徳」『東京新聞』夕刊二三三三七号(文化8面)、中日新聞東京本社、平成19年3月12日(月曜)

「中日新聞」夕刊二三一七〇号(文化11面)、中日新聞社、平成19年3月12日(月曜)

↓『中日新聞縮刷版』平成19年3月号36巻3号(567頁)、中日新聞社、平成19年4月

↓『神と怨霊 思うままに』(267～269)、文芸春秋、平成20年3月

神田祥子 「カーライル博物館」論―明治期のカーライル受

容を視座として―」松村昌家編『夏目漱石における東と西』大手前大学比較文化研究叢書4(153～175頁)、思文閣出版、平成19年3月

↓『漱石「文学」の黎明』(51～75頁)、青簡舎、平成27年

1月

森下恭光 「教師夏目金之助の研究(十一)―鈴木三重吉との師弟関係―」『明星大学教育学研究紀要』22号(1～10頁)、明星大学教育学研究室、平成19年3月

松村昌家 「『倫敦塔』における歴史と絵画の融合―漱石とポール・ドラローシュ―」『大手前大学人文科学部論集』

7号(大手前女子大学論集40号)(85～106頁)、大手前大学、

平成19年3月

↓『国文学年次別論文集近代2平成19年』（55～66頁）、学術文献刊行会編、朋文出版、平成22年1月

染宮千鶴子 「倫敦塔まで」『歌集倫敦塔まで』（158～161頁）、

六花書林、開発社発売、平成19年5月

無署名 「朝日歌壇俳壇 風信」『朝日新聞』朝刊四三三〇七

号（12面）、朝日新聞東京本社、平成19年5月28日（月曜）

↓『朝日新聞縮刷版』平成19年5月号通巻1031号（1376頁）、

朝日新聞社、平成19年6月

羽澄勢津子 「ロンドン塔と漱石」「きぼっこ」32号（46～47

頁）、きぼっこの会編、発行木村桂子、平成19年12月

平成20（二〇〇八）年

秋山 豊 「第二章『濛虚集』のこと／第三章烈士喜剣の碑」

『漱石の森を歩く』（59～160頁）、トランスビュー、平成20

年3月

原 英一 「小説家漱石、その語りの原点―ホガース、ドラ

ローシユ、ミレイー」『英語青年』154巻6号9月号1915号

（11～14頁）特集漱石の英国十八世紀、研究社、平成20年

9月

平成21（二〇〇九）年

和田博文 「テーマで読み解く現代 都市体験（上）貧困、

挫折を耐えて 牧野義雄著『霧のロンドン』ほか」『東京

新聞』朝刊二三九四一号（読書18面）、中日新聞東京本社、

平成21年6月14日（日曜）

近藤 哲 「第三章漱石と正禧の交流を巡って 東京時代（明

治三十三年～四十一年）5 漱石作家デビューと正禧」『夏

目漱石と門下生・皆川正禧』（91～98頁）、歴史春秋出版、

平成21年7月

平成22（二〇一〇）年

平川祐弘 「第二回仏教の地獄とキリスト教の地獄」（38～59

頁）／「第四回地獄の門」（78～98頁）『ダンテ『神曲』講

義』、河出書房新社、平成22年8月

↓『平川祐弘決定版著作集ダンテ『神曲』講義』（54～84頁）／

（111～140頁）、勉誠出版、令和2年2月

↓『ダンテ『神曲』講義（上）』（64～106頁）／（145～188頁）、

河出文庫ひ15―1、河出書房新社、令和5年5月

村井重俊（文）・小林 修（写真） 「連載週刊司馬遼太郎

（173）日露戦争と子規の最期「坂の上の雲」の世界第4部

（第3回）真之と漱石の悲しみ」『週刊朝日』115巻44号通巻

5030号（108～112頁）、朝日新聞出版、平成22年10月

平成24（二〇二二）年

松村昌家 「第一部フォアランナー・ディケンズ―「ドンビー

父子」における商会（ハウス）と家庭（ファミリー）」『ヴィ

クトリア朝文化の世代風景―ディケンズからの展望―』

（5～31頁）、英宝社、平成24年2月

福永勝也 「夏目漱石の「巴里・倫敦」考―明治知識人の「西

洋」との邂逅と相克―」「人間文化研究」29号（1～44頁）、

京都学園大学人間文化学部、平成24年12月

宮本由紀 「評論 玉座をめぐりて雷鳴はとどろく―ロンドン

ン塔奇譚―」「教育文芸みえ」30号（128～139頁）、三重県公

立学校職員互助会公立学校共済組合三重支部、平成24年12

月

八太正之介 「選評」評論／評論二題（245頁）、同右

無署名 「夏目漱石 イギリス／ロンドン塔」『世界の作家

が愛した風景』The landscapes appreciated by the literary

legends in the world』（86～87頁）、パイ インターナシヨ

ナル、平成24年12月

平成25（二〇一三）年

関谷由美子 「第二章 学問から小説へ―『趣味の遺伝』の

余―」『磁場』の漱石 時計はいつも狂っている』（33～

57頁）、翰林書房、平成25年3月

中野京子 「中野京子の名画が語る西洋史」『10消えた少年た

ち』フランス人の英国史 ロンドン塔の王子たち」「文藝

春秋」91巻6号5月号（39～41頁）、文芸春秋、平成25年

5月

↓『中野京子と読み解く名画の謎 陰謀の歴史篇』（11～

29頁）、文芸春秋、平成25年12月

井上 務 「発言 切り口新鮮 漱石の美術」「東京新聞」朝

刊二五三五一号（5面）、中日新聞東京本社、平成25年6

月3日（月曜）

生方智子 「書評 関谷由美子著『磁場』の漱石 時計はい

つも狂っている」『日本文学』62巻9号（72～73頁）、日

本文学協会、平成25年9月

平成26（二〇一四）年

高津祐典・西 正之 「漱石こころ100年 海外でも読ま

れる漱石 国境・時代超える共感」『朝日新聞』夕刊

四六〇四八号（文化3面）、朝日新聞東京本社、平成26年

7月22日（火曜）

↓『朝日新聞縮刷版』平成26年7月号通巻1117号（1189頁）、

朝日新聞社、平成26年8月

平成27（二〇一五）年

西山純子 「第II部装飾美術の探求 書籍（78～125頁）『漾虚

集 夏目漱石著（86～87頁）』『橋口五葉―装飾への情熱』

ToBi selection、東京美術、平成27年2月

清水義和 「夏目漱石のラファエロ前派と村上春樹訳マチヤ

ンドラー作『ロング・グッドバイ』の迷路」『愛知学院大

学教養部紀要』62巻3号（45～72頁）、愛知学院大学教養

教育研究会、平成27年2月

備仲臣道 「漱石山房の章」『内田百閒 百鬼園伝説』（33～

68頁）、皓星社、平成27年5月

佐藤宣行 「後編「共鳴」の系譜Version1『倫敦塔』』『描写

理論「則天去私」攷―「共鳴」の「構図」』（105～114頁）、

文芸社、平成27年9月

恒松郁生 「漱石の世界 足跡をたどって 2個人主義に目覚めたロンドン」 「朝日新聞」朝刊四六四七二号（別刷り特集2面）、朝日新聞社、平成27年9月30日（水曜）

↓ 『朝日新聞縮刷版』平成27年9月号通巻1131号（1526頁）、朝日新聞東京本社、平成28年10月

平成28（二〇一六）年

福井ひとみ・木戸浦豊和 「日英学術交流150周年記念 [Natsume Soseki, the Greatest Novelist in Modern Japan] 展開催報告」 「東北大学附属図書館調査研究室年報」3号（77～84頁）、東北大学附属図書館、平成28年3月

無署名 「漱石クロニクル 二十世紀と出会った明治の男（26～47頁）」「西へ西へ（30～34頁）」「『エンサイクロペディア夏目漱石』、漱石文学研究会編著、洋泉社、平成28年5月

柳 広司 「「倫敦塔」―無敵のガイドブック」 「文芸別冊」

夏目漱石 百年後に逢いましょう（42～44頁）、KAWADE 夢ムック、責任編集奥泉光、河出書房新社、平成28年6月

↓ 「文芸別冊」夏目漱石百年後に逢いましょう 増補新版（42～44頁）、KAWADE 夢ムック、責任編集奥泉光、河出書房新社、平成30年5月

無署名 「第1章夏目金の助奮闘す7漱石はシャーロック・

ホームズを読んだか？」（28～30頁）／「第8章一度は読

みたい漱石名作選44「倫敦塔」・「幻影の盾」（150～151頁）『夏目漱石没100年の読み直し 漱石先生について知っておきたい59の事柄』DIA Collection、編集担当白石弘、ダイアプレス、平成28年7月

黄 翠娥 「夏目漱石のパラドキシカルな浪漫観の構造」 「日本語日本文学」45輯（59～78頁）、輔仁大学外語学院日本語文学系、平成28年7月

長島裕子 「第二章門下生から（23～46頁）」「明治三十八（一九〇五）二月二十七日野間真綱より」（38頁）『漱石の愛した絵はがき』中島国彦・長島裕子編、岩波書店、平成28年9月

無署名 「絵はがき文面翻刻」（125～142頁）「128頁」、同右

無署名 「天声人語」 「朝日新聞」四六八二七号朝刊（1面）、朝日新聞東京本社、平成28年9月29日（木曜）
↓ 『朝日新聞縮刷版』平成28年9月号通巻1143号（1387頁）、朝日新聞社、平成28年10月

多賀幹子（文）・**富岡秀次**（写真） 「イギリスと日本の近代化のはざままで 漱石が歩いたロンドン」 「Aeria エラ」29巻46号 通巻1588号（37～41頁）、朝日新聞出版、平成28年10月24日

安藤文人 「漱石の読んだ「通俗なある外国雑誌」―材源としての Windsor Magazine ―」 「Waseda RILAS Journal」4号（452～440頁）、早稲田大学総合人文科学研究センター、

平成28年10月

服部英雄 「五高教授・夏目金之助、虚と実」「熊本城」復刊104号（1頁）、熊本城顕彰会、平成28年11月

五十畑 弘 「5伝説と物語 夏目漱石の小説と橋」「日本の橋Bridges in Japan—その物語・意匠・技術—」シリーズ・ニッポン再発見5（149～159頁）、ミネルヴァ書房、平成28年12月

平成29（二〇一七）年

小森陽一 「世界文学としての夏目漱石」「生誕150年世界文学としての夏目漱石」（1～28頁）、フェリス女学院大学日本文学国際会議実行委員会編、岩波書店、平成29年3月

藤井 哲 「木村毅と英文学」「福岡大学人文論叢」48巻4号通巻191号（1～83頁）、福岡大学研究推進部、平成29年3月

中野京子 「中野京子 怖い絵展の記者発表会」「日本経済新聞」夕刊四七一一六〇号（7面）、日本経済新聞社、平成29年6月8日（木曜）

↓『日本経済新聞縮刷版』69巻6号6月号（405頁）、日本経済新聞社、平成29年7月

中野京子 「橋をめぐる物語「九日間の女王」の悲劇 ロンドン塔のジェーン」「東京新聞」夕刊二六八二四号（5面）、中日新聞東京本社、平成29年7月26日（水曜）

「中日新聞」夕刊二六八五七号（文化7面）、中日新聞社、

平成29年7月26日（水曜）

↓『中日新聞縮刷版』平成29年7月号46巻7号（1067頁）、中日新聞社、平成29年8月

↓『怖い橋の物語』河出文庫な39—1（216～219頁）、河出書房新社、平成30年12月

中野京子 「中野京子が解説！ダモクレスの剣」「怖い絵のひみつ。「怖い絵」スペシャルブック」（5～17頁）、KADOKAWA、平成29年7月

宮部みゆき・中野京子 「怖い絵」展開催記念！対談 宮部みゆき×中野京子」（73～79頁）、同右

井出 明 「中野京子特別監修「怖い絵」展 ダークツリーズムで広がる絵画の抱える怖さ（108～123頁）」「夏目漱石はロンドン塔をどう見たのか？（113頁）／我々は《レディ・ジェーン・グレイの処刑》といかに対峙すべきか（114～118頁）」「美術手帖」2017年10月号69巻 106号、美術出版社、平成29年9月

池田洋一郎 「新美眼152ポール・ドラローシュ「レディ・ジェーン・グレイの処刑」（183年）歴史の惨状描写 まるでオペラ」『朝日新聞』大阪版 夕刊四八七六三号（アート5面）、朝日新聞大阪本社、平成29年9月1日（金曜）

中野京子 「Column ロンドン塔、ジェーン、夏目漱石」「怖い絵展 Fear in painting」（194～195頁）、産経新聞社、平成29年

↓『もっと知りたい「怖い絵」展』(92～99頁)、KADOKAWA、令和元年11月

↓『展覧会の「怖い絵」』(102～111頁)、角川文庫な—50—
11 23041 KADOKAWA、令和4年2月

平成30(二〇一八)年

松原典子 「ジェイン・オースティンの『イングランド史』」

「中京学院大学経営学部研究紀要」25巻(155～168頁)、中京学院大学経営学部、平成30年3月

緒方賢一 「英の漱石資料 再び公開 ロンドン記念館閉館

2年経て」『読売新聞』夕刊五二二四〇号(10面)、読売新聞

聞東京本社、平成30年9月3日(月曜)

↓『読売新聞縮刷版』61巻9号9月号通巻721号(128頁)、

読売新聞社、平成30年10月

平成31・令和元(二〇一九)年

牛島富美二 「夏目漱石「倫敦塔」のユーレイ」『Po』総合詩

誌174号(50～51頁)、特集ユーレイ・ghost「Po」の会編、

竹林館、令和元年8月

河村錠一郎 「ターナー、ラスキン、ラファエル前派—ラス

キン生誕二百年記念『ラファエル前派の軌跡』展にちなん

で」『ラスキン文庫たより』78号(1～7頁)、ラスキン文

庫、令和元年10月

↓『イギリスの美、日本の美—ラファエル前派と漱石、ビ

アズリーと北斎』(23～40頁)、東信堂、令和3年4月

中川 越 「伝える工夫 手紙・メール「ありがとう」抜き

の感謝」『東京新聞』朝刊二七六一号(くらし24面)、中

日新聞東京本社、令和元年10月16日(水曜)

「中日新聞」朝刊二七六四四号(くらし24面)、中日新聞社、

令和元年10月16日(水曜)

↓『中日新聞縮刷版』令和元年10月号48巻10号(600頁)、

中日新聞社、令和元年11月

令和2(二〇二〇)年

堀田政亨 「ウンブリアに住んで平川作品を読む」『平川祐弘

決定版著作集ダンテ『神曲』講義』(756～765頁)、勉強出版、

令和2年2月

大山英樹 「第一部漱石の文壇登場とその認知のされ方第二

章ホト、ギス派の俳人作家」『夏目漱石と帝国大学—「漱

石神話」の生成と発展のメカニズム』(53～80頁)、晃洋

書房、令和2年3月

細川祐子 「最終章 続く発見、深化する解釈—ドラロッ

シュ、クリヴェツリ、ファン・エイク」『ロンドン・ナ

ショナル・ギャラリー=THE NATIONAL GALLERY

LONDON—名画がささやく激動の歴史』(401～441頁)、明

石書店、令和2年11月

河村錠一郎 「ラファエル前派、ラスキン、そして漱石—

一九〇〇年のロンドン」『ラファエル前派の軌跡=Parabola

of pre-Raphaelism Turner, Ruskin, Rossetti, Burne-Jones

& Morris』(13～19頁)、監修クリストファー・ニューオル・ステイヴン・ワイルドマン・河村錠一郎、アルティス、令和2年

↓『イギリスの美、日本の美』ラファエル前派と漱石、ビズリーと北斎』(3～22頁)、東信堂、令和3年4月

令和3(二〇二二)年

中野京子 「第一章絵を見る 絵を読む その闇を知ったとき、名画は違う顔を見せる―「怖い絵展」『そして、すべては迷宮へ』(45～47頁)、文春文庫な58―9、文藝春秋、令和3年3月

木村澄子 「I『倫敦塔』論『倫敦塔』の言語現象」特徴的な言語現象と「御殿場の兎」―虚構を可能にしたもの―」鳥井正晴・宮園美佳・古浦修子編『『倫敦塔』論集 漱石のみた風景』近代文学研究叢刊70(3～36頁)、和泉書院、令和3年3月

松下浩幸 「帝国と観光―「反語」としての「倫敦塔」―」(37～56頁)、同右

宮園美佳 「夏目漱石「倫敦塔」論―観光「すること」からの離陸―」(57～77頁)、同右

木谷真紀子 「「余」の紡いだ(英国)―夏目漱石「倫敦塔」論―」(79～118頁)、同右

廣橋香文 「「倫敦塔」再考―「余の空想」は誰のものか」(119～138頁)、同右

古浦修子 「『倫敦塔』の時間と空間―「過去」への眼差しを視座として―」(139～165頁)、同右

長島裕子 「『倫敦塔』への道―「帝国文学」という発表の場から―」(167～186頁)、同右

「『帝國文學』第拾壹卷第壹影印(抜粹)」(187～213頁)、同右

長島裕子 「『倫敦塔』をめぐる書簡」(215～233頁)、同右

鳥井正晴 「II 研究史を踏まえて『倫敦塔』論の前提―倫敦塔評釈」(237～423頁)、同右

仲 秀和 「『倫敦塔』研究史」(425～486頁)、同右

村田好哉 「『倫敦塔』研究文献目録」(487～546頁)、同右

野網摩利子 「III 特別寄稿ウォルター・スコットの明治と漱石」(549～574頁)、同右

鳥井正晴・宮園美佳・古浦修子(司会) 「IV机上鼎談編集のこと・論評」(575～630頁)、同右

木谷真紀子・鳥井正晴(司会) 「机上インタビュー―木谷さん聞く」(631～634頁)、同右

編集委員会 「V『漱石作品』論集 風景シリーズ』始末記」(635～660頁)、同右

鳥井正晴 「『謝辞』にかえて―人々との縁、という「解」」(661～675頁)、同右

木谷真紀子 「コラム」(78、166、214頁)、同右

深澤 清 「文学を通して考える海外留学―夏目漱石を中心

として―」「明星大学全学共通教育研究紀要」3号（75～85頁）、明星大学教育学部全学共通教育委員会、令和3年3月

神田祥子 「書評 服部徹也著『はじまりの漱石』『文学論』と初期創作の生成」「国語と国文学」98巻10号通巻1075号（70～74頁）、東京大学国語国文学会編、明治書院、令和3年10月

姜 尚中 「老いる力第31回カラスと鴉と鳥」「私のまいにち」74号（18～19頁）、毎日新聞出版編、毎日新聞社、令和3年10月

↓『生きる意味』（138～143頁）、毎日新聞出版、令和4年11月

加藤 空 「新刊紹介 鳥井正晴・宮園美佳・古浦修子編『倫敦塔』論集 漱石のみた風景」「国文学研究」195集（142頁）、早稲田大学国文学会、令和3年10月

令和4（二〇二二）年

増満圭子 「『坊っちゃん』論―明るさの奥に潜むもの―」「東洋学園大学紀要」30号（318～335頁）、東洋学園大学、令和4年2月

佐々木亜紀子 「紹介鳥井正晴・宮園美佳・古浦修子『倫敦塔』論集 漱石のみた風景」「日本近代文学」106集（245頁）、日本近代文学会、令和4年5月

佐々木英昭 「第三章矛盾の多い男と女―漱石の仮対法」

『漱石、シェイクスピアに挑む―物凄い文学の手際』（79～91頁）、幻冬舎ルネッサンス新書257、幻冬舎メディアコンサルティング発行、幻冬舎発売、令和4年10月

令和5（二〇二三）年

門賀美央子 「倫敦塔今昔 漱石を通して」「漱石山房記念館だより」13号（2～3頁）、新宿区立漱石山房記念館、令和5年8月